

大阪府柔道整復師会医療スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和 6年 12月 19日(水) 実施】

資料第2号

令和6年度自己点検自己評価(令和6年3月31日～令和6年12月1日)による

評価委員氏名【藤井委員、徳山委員、水野委員、馬場委員】

項目	点検項目	自己点検	重点目標	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育理念・目的・育成人材像	1-2-3 学校における職業教育の特色は明確になっているか	<p>1.基礎分野:科学的・理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う。生命倫理、人の尊厳を幅広く理解する。さらに、国際化及び情報化社会に対応できる能力を構築する。</p> <p>2.専門基礎分野:人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康、疾病、外傷及び障害について、その予防と治療に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養うことで適切なトレーニング指導、機能訓練、柔道整復術を行うための適応能力を養う。さらに、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会的資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を学び、保健医療福祉の推進のため、柔道整復師が果たすべき役割や職業倫理についての学びを全学生に提供する。</p> <p>3.専門分野:様々な外傷に必要な予防と治療、指導管理の知識と技能を修得し、医療、スポーツ、柔道整復現場での運動療法、パーソナルトレーニングやリハビリトレーニング、インストラクター指導、機能訓練指導に必要な適切な対応を学ぶ。さらに医療人として臨床現場における実践的な対応能力、患者との適切な対応、チーム医療としての柔道整復師の役割を現場で学び、社会的要請の多様化に対する機動力、社会的責任と自覚を学ぶ実践的な機会を全学生に提供する。(学生便覧、HP掲載のカリキュラム・ポリシー)</p>	<p>大阪府柔道整復師会医療スポーツ専門学校の理念である「敢作敢当・修己治人・謹厳実直」の精神に富み、自身の知識を絶えず高め、精神をも磨き続けることのできる倫理観を持った人材育成を行う。生涯にわたって学びつづけながら、国内にとどまらず世界の様々な地域で社会に貢献する矜持を持ち、自らの専門性に基く知見を活用し、人としての尊厳と多様な価値観や生き方を尊重し、良き社会・世界の実現に貢献できる人材を輩出する。</p> <p>▶ディプロマ・ポリシー(高度専門士授与の方針) 本学で学ぶ学生が身につける能力や素養として、以下の6つを掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.伝統の設を破る新しい概念を構築する開拓能力 2.解を提案、論理的に説明する問題発見能力と問題解決能力 3.他者との相互理解を実現するためのコミュニケーション力 4.社会の事象を多面的に捉え建設的な提案を行う健全な批判的精神 5.自他を認め、公正な視点で多様性を受容する自律と寛容の精神 6.健全な倫理観と責任感、主体性と行動力のある豊かな人間性 <p>以上に重きをおき目標として掲げている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-0</p> <p>評価3-4</p>	<p>・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明確に示されており、運営母体の職能団体の理念を實踐されている。・4年間で多分野のプログラムにより多くの選択肢(資格)があり充実した内容だと思ふ。・理念に基づき4年制のカリキュラムの中で多くの資格を取得できる機会が設けられている。・専門分野は柔道整復の療法以外のトレーニングやインストラクター指導、機能訓練指導等を学ぶことやチーム医療として柔道整復師の役割を学ぶことで視野も拡がり勉強になると思ふ。・高度専門士を取得できることで様々な分野に進出し柔道整復師の価値を向上させてくれると期待している。・毎年2年次に介護実習で受け入れられているが基本的には礼節はできており、問題はないと思ふ。</p>	
2 学校運営	2-4-30 企業や各種の団体等が主催する研修会等への参加を奨励・支援しているか	<p>1.大阪学術大会 2.日本柔道整復骨医学学会学術大会 3.日本体育科学学会大会 4.公益財団法人健康づくり事業財団主催指導養成者講習会 5.研修会等への参加を奨励・支援している。さらに大阪市西区和包括連携協定を2024年から締結したことから、西区が主催する健康教室、家族教室における指導者として参加している。</p>	<p>文部科学省は大学等における産学連携等の実施等を把握し連携実施状況を毎年度調査し国の施策として推し進めている。大学や研究機関等が持つ研究成果、技術やノウハウを民間企業が活用し、実用化や産業化へと結びつけるものであるが、本校も4年制として西区と包括連携協定を成功させ産学官連携で実績を積み社会貢献できるように、さらには学生も巻き込み発展させることを目標とした。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-0</p> <p>評価3-4</p>	<p>・研究支援体制に加えて、地域での活動にも力を入れている。・地域に貢献する為の連携は評価に値する。・学生にとって素晴らしい教育環境だと思ふ。(人間育成になる)・学生のときから様々な学術大会に参加しておくことは重要だ。今年度の学会も頑張っていたと思ふ。また、西区の健康教室家族教室への参加は一般市民との関わりとなり今後の良い経験になると思ふ</p>	
3 教育活動	3-2-84 企業・施設等での職場実習(インターンシップ含む)があるか	<p>企業・施設等での臨地実習及び職場実習を以下に示す。 1.大阪歯科大学 解剖学教室 2.リハビリでいさびす元気や 3.松原整形外科医院 4.山本第3病院 5.ミズノウエルネス</p>	<p>企業・施設等での臨地実習及び職場実習後は、実習目的や実習目標を理解させることを評価項目とし実習レポートや実習簿の記載を徹底させ学びを深めさせる。感想文にならないよう論理的にまとめることを1年次から何度も専任教員が添削し柔道整復師の専門職としての論理的思考力・仮説検証力がの基礎づくりを目標としている。3年、4年次には、参考文献を正しく活用し根拠のある主張と実践、臨床推論力を身に付けさせ、生涯にわたってリサーチマインドを持ち続ける人材育成に重きをおき教育目標としている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-3</p> <p>評価3-1</p>	<p>・教育活動の場として今後さらに地域(高齢者施設や訪問など)へと拡大してもらいたい。・実習レポートの記載の徹底は評価できる。実習施設の継続的な確保や増加が課題と考える。・介護現場は若い学生から見れば華やかさはないが積極的に利用者寄り寄り頑張り続けた。・臨地実習・職場実習は学生にとって一番経験になる実習であると思ふ。現場の知識がない学生にとっては理解し難いことが多いと思ふが、後々経験や知識となると思ふ。</p>	
4 教育成果	4-2-1 就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか)	<p>就職支援に関しては2年次に国家資格キャリアコンサルティングから将来どのようなキャリアを目指したいのか、そのためにどうすればいいのかを考えた就職支援を実施、基本的就活・面接マナーを指導する。4年生では事前就職の方向性、就職希望をアンケート調査し、希望が確定すれば会長に面談を行って頂きヒアリング、ヒアリング内容をもとに就職先確保にご尽力を頂いている。そのため、就職率は100%を継続している。</p>	<p>厚生労働省が2020年に発表したデータによると、2019年における入社3年以内の離職率は約3割で大学卒の離職率が32.8%、短大卒は43.0%、高校卒は39.5%、中学卒は59.8%となっている。2022年10月28日発表の早期離職率データでは、大卒新入社員早期離職率(3年以内離職率)は31.5%で、近年、入社後3年以内3人に1人が離職していることが知られている。本校卒業生の裏付けは調査出来ていないが、本校が特異であることは考えにくい。独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査によると早期離職率は若者の知識・経験不足に起因するディスコミュニケーションが大きいとの指摘もあることから離職を軽減する取り組みを目標としている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-3</p> <p>評価3-1</p>	<p>・どの業界も早期離職は課題となっており、母校が交流の場となるようホームカミングデーの開催など対策を講じている。今後取り組み検討が必要。・幅広い就職支援ができていく。業界団体としての有利性を感じている。早期離職は仕方ないが回数が増えないようにする必要がある。・御校の現状を聞いて評価します。・面接サポートを実施しており良い取り組みであると思ふ。早期離職率はこの業界だけでなく現代の風潮でいうもので早期離職の起因を探り軽減する取り組みも評価できる。</p>	
5 学生支援	5-4-45 学習に関する要望、学習に関する要望を取り巻く状況及び通学の障害となる要因(距離や費用等)を理解し、解決に向けた提案を行っているか	<p>学習に関する要望、学習に関する要望を取り巻く状況をできるだけ把握できるよう、教員同士は個別に受けた些細な相談、一見些細な発言や行動を思われることもinfolclipperを用いて共有し、学生の変化を見逃さない工夫を行い、学習の要望把握に努めている。学生指導記録や志望動機書、オープンキャンパスアンケートから、入学前入学後のミスマッチも解消できるよう教員同士で情報共有し専任の授業内容や手法に工夫をこらしている。地方からの進学者とは入学前より通学の障害となる要因を軽減するため居住しようとする場所と学校の距離、交通手段などを学校及び学生限定マンション専門のユナイフと提携し相談支援体制を整え解決に向けた提案を入学後も実施している。</p>	<p>通学の障害となる要因を軽減するため、24時間365日トータルサポートしてくれる、学生総合補償サービスが整った家具付き・家電付きの本校提携学生専用マンションとして紹介できる体制を整えている。また、学生が安心して学べる環境を整備するため、キャリア教育共済協同組合の学生生徒24時間補償に加盟している。ケガや事故による治療諸費用や熱中症補償、学生本人がケガや事故により死亡・後遺障害を負った場合の補償、自転車事故等による賠償事故対応、インターンシップ、アルバイト中の賠償事故も対象となり、全ての学生が安心して学業継続ができるように、24時間365日の事故を漏れなく補償するセーフティーネットの役割を果たす学内制度構築を目標としている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-0</p> <p>評価3-4</p>	<p>・学習関係が整えられるよう財的対策が提唱されている。・地方出身者も増加しているため補償に対して万全に継続することを望む。・学習面、生活面へと整っていると思ふ。HPを覗いたら充分恵まれている。・地方出身者への居住地の配慮も通学を継続するためのポイントになると思ふ。入学後の学費、生活費のためのアルバイトをする学生を考慮したサポートも良いと思ふ。</p>	
6 教育環境	6-2-2 実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備されているか。	<p>実技・実習に先立って実施する実習前オリエンテーションは、各学年で実施し、職業倫理や個人情報の取扱いに関する規程と学生指導マニュアル、実習概要を整備し運用している。学生便覧には守秘義務に関する詳細も掲載し、各学年で実施する実習前には、さらに細かな守秘義務に関する指導を行い、同意書にサインをさせ理解を深めている。</p>	<p>最も倫理教育が必要な人体解剖学実習においては、実習前に解剖学教室の先生方より、黄菊会の成り立ちと活動や学ぶ機会を設けて頂き、倫理教育を徹底して実施して頂いている。柔道整復師としての職業倫理は、運営母体会長はじめ副会長、理事の先生方にご協力頂き職業に対する倫理感が高い学生の輩出にご協力頂いており、今後も学生のうちからコンプライアンスを徹底できる人材育成を目標とする。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-0</p> <p>評価3-4</p>	<p>・各種マニュアル規定に個人情報の取扱い職業倫理について記載されており、整備されている。・職能団体、業界団体として重要視している点である。継続して徹底して頂きたい。・実習の受け入れ側としては問題ない。・特に人体解剖学実習実習においての献体を同意された方への謝意を含め学ぶ機会の重要性を倫理教育に繋げていることが良いと思ふ。</p>	
7 学生の受け入れ募集	7-1-24 体験入学・オープンキャンパス等を実施し、多くの人に教育内容・施設設備等の紹介をしているか	<p>入学式や卒業式、運営母体総会等の大きな行事がない限りは、毎週体験入学とオープンキャンパスを実施しアドミッションポリシーに対する理解を深め求める学生像につき説明を行っている。また、教育内容や施設見学、授業見学、体験実技を通じ、本校の教育環境、教育理念、学内の雰囲気、他業種との比較、大学との違いを紹介している。</p>	<p>少子化の影響はあるが、全国に13校程度しか柔道整復師養成校がない時代に柔道整復師国家試験を受験していた平成5～平成15年頃の高校偏差値の学生さんが集まり出ている。偏差値が全てではないが、高い目標を持ち柔道整復の業界に対して興味や関心が高い傾向がある。そのような熱意をお持ちの方を応援するためのAOフロンティア入試の導入を2025年度入学生から導入し、大学に限り負けない優れた学生を受け入れることができる体制に重点を置いている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-1</p> <p>評価3-3</p>	<p>受験者の幅を広げてより多くの学生を受け入れられるように募集方法も検討されている。・学校目標でもある将来の業界のリーダー的人材育成の活動は評価できる。しかし、入学生の質についてまだまだ課題が多いと感じる。・毎週オープンキャンパスを実施し多くの方に接している活動は素晴らしいです。・以前に比べてオープンキャンパスの回数は増えている効果が現状の入学生の増加に繋がっていると思ふ。AOフロンティア入試で優秀な志の高い人材を受け入れる体制は良い試みだと思ふ。</p>	
8 教育の内部質保証システム	8-3-26 学校評価の準備から実施、また公表に至るまで、教職員が協力して行えたか。	<p>学校評価の準備から実施は特定の者が行っているが、公表に至るまでには教職員が協力し実施できている。</p>	<p>教育の内部質保証として学校としての使命や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究、組織及び運営、ならびに施設及び設備の状況について継続的に点検と評価を実施し、教員間で情報共有を行い改善・向上に取り組むようになっている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-3</p> <p>評価3-1</p>	<p>ホームページでの公表が探せず外部への発信が弱い。・教務、事務体制の人員不足が課題である。・組織内部は見えていないのでよくわかりません。・学校評価についても放置することなく教職員が情報共有、協力し取り組み良いと思ふ。</p>	
9 財務	9-1-3 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<p>運営母体の(公社)大阪府柔道整復師会において学校を含めた本会全体の財務数値に関する財務分析が行われている。</p>	<p>少子化の影響により日本の18歳人口は1992年以降肩下がりが続いており、2005年には約137万人から現在は約112万人まで減少している。2035年には初めて100万人を割って約96万人となり2040年には約82万人にまで減少するという推計が文部科学省から出されている。大学が専門学校のような広報を展開し年内合格を主流にしていることから専門学校運営はますます厳しい見込があることから、選ばれる学校となり財政を安定させられることを重点目標としている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-4</p> <p>評価3-0</p>	<p>・適性に管理されている。・学校単独会計ではない為難しい課題である。業界の現状を考えると運営母体の財政から検討する必要がある。・財務＝学生数の確保だと思ふが開校当初に比べたらここ数年は入学者も安定してきたと言える。これから卒業生が社会でいかに活躍できるか、4年間のフィードバックが影響してくる。・本会で財務分析が行われていると思ふので、学校側は学生確保に努めて財政を安定させることに注視して欲しい。</p>	
10 社会貢献・地域貢献	10-2-5 地域の企業、業界団体、自治体等と連携した事業等(分野により研究、開発)を行っているか	<p>西区との包括協定としての健康教室や家族教室、西区子育てサロンにおける指導、西区老健福祉センターでのフレイル予防教室など自治体と連携した事業を展開している。さらに、業界団体内にある附属接骨院と連携し症例研究も毎年行い、学生にしたいという目標を掲げ行動を起こしている。また、産学官の連携による研究開発も既にアイデアはあり実施したいと常に考えていることから、常にアンテナを立てチャンスを掴めるよう努力していきたいと考えている。</p>	<p>西区との包括協定としての健康教室や家族教室、西区子育てサロンにおける指導、西区老健福祉センターでのフレイル予防教室など自治体と連携した事業については、今後学生も含めた事業展開を行い、学生の頃から社会貢献や地域貢献を意識して行動できる学びの場にしたという目標を掲げ行動を起こしている。また、産学官の連携による研究開発も既にアイデアはあり実施したいと常に考えていることから、常にアンテナを立てチャンスを掴めるよう努力していきたいと考えている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-0</p> <p>評価3-4</p>	<p>・地域で活発な活動がホームページからも伝わる。・取り組みとして評価できる。継続して活動する事を望む。・公営の学校なので西区のみならず他の行政機関へも連携を期待する。・附属接骨院との連携で症例研究も行い医学雑誌への掲載を行っており、我々の業界で不足している症例研究論文を作成できる能力を養えると思ふ。</p>	
11 国際交流(必要に応じて)	11-1-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	<p>研究成果は、アメリカマサチューセッツ州やニューヨーク、オランダ、イギリスで評価されインパクトファクターも3.5あるが、学習評価は海外では評価されていないので、こちらの分野も取り組めるようにしたい。国内においては、大阪府より本校教員が「大阪府私学教育功労者」として表彰されており、このような人材を後身育成できるように取り組みを行っている。</p>	<p>大専各留學生情報サイトに Osaka Judo therapist association college of medicine and sport で掲載、中国とモンゴルからの留學生が柔道整復師免許を取得されたことを公開している。今後も国内外で評価されるような取組を行うことを目標としている。</p>	<p>評価1-0</p> <p>評価2-1</p> <p>評価3-3</p>	<p>・研究を通して、学習成果を国内外に発信されている。今後も継続して頂きたい。・今後もグローバルな活動により後進育成される事を期待する。・大学の基礎教養課程のように英語や第二外国語の授業を開きインバウンドや外国の医療人もコミュニケーションが取れる人材育成もして欲しい。・本校の教員、学生が国際的に評価されるような取り組みを期待する。</p>	